

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会は2025年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項によって実施する。

2. 競技者の招集について

- (1) 競技者係は、本競技場第4ゲート（100m スタート側）の外側に設ける。欠場届、多種目同時出場届は競技者係で受け取り、提出すること。
- (2) 招集所（最終点呼）の位置は、本競技場第4ゲート（100m スタート側）の外側付近の選手控え場所とする。
- (3) 各種目の招集開始時刻・完了時刻は、すべてその競技開始時刻を基準とし、下記の要領で行う。

種 目	招集開始時刻	招集完了時刻
ト ラ ッ ク 競 技	25分前	15分前
フ ィ ー ル ド 競 技	40分前	30分前
棒 高 跳	70分前	60分前

※棒高跳は1時間前現地点呼

- (4) 競技者は、招集完了時刻までに集合しアスリートビブスの確認を受け、競技者係の誘導により競技場に入る。
- (5) 棒高跳に出場する競技者は、競技開始時刻1時間前までに現地に集合のうえ点呼を受け準備を行うこと。
- (6) 代理人による招集の最終確認は認めない。2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、該当競技の最初の種目の招集開始時刻前までに多種目同時出場届に必要な事項を記入し、招集所（競技者係）に提出すること。
- (7) 招集場所での不在や招集完了時刻に遅れた競技者は、当該種目を棄権したものとして処理するので注意すること。
- (8) 当該競技を棄権する場合は、必ず棄権届を競技者係に提出すること。（招集開始時刻前までに提出すること）

3. アスリートビブスについて

- (1) 全ての競技者はユニホームの胸、背に主催者が交付したものを使用し、確実に付けること。跳躍競技に出場する競技者は、胸又は背のどちらかに付けるだけで良い。
- (2) トラック競技出場者は、写真判定用の腰ナンバーカード（点呼の際、競技者係より配布）を右腰やや後方に付けること。フィニッシュ後に自分で外し、係の者に返却すること。
- (3) 3000m以上は、黄色のレーンナンバーカードを胸・腰に使用する。（招集時に配布）

4. レーン順、競技順及びA、B決勝について

- (1) トラック競技予選レーン順、フィールド競技試技順はプログラム記載の順による。
- (2) 決勝の組み合わせ及びレーン順は番組編成係で抽選をし、その結果をスタートリスト掲示板に提示する。
- (3) トラック競技において、プラス進出者を決める場合、同タイム者についてレーンに余裕がない場合は1/1000まで読み取り着差を判定する。同成績（0.001秒単位まで同じ）となった場合は本人または代理人によって抽選をし次進出者を決める。
- (4) 短距離競走のフィニッシュ後は、競技者の安全のため自分に割り当てられたレーン（曲走路）に沿って走り終えること。
- (5) A、B決勝の振り分けについては、予選記録によって上位8名をA、上位9位～16位8名をBとする。

5. 競技について

- (1) TR16.8により不正スタートをした競技者は1回で失格とする。
また、競技規則 TR16.5.1～3を行った場合、審判長がイエローカードを示し警告を与える場合がある。
警告及び失格についてはTR7を適用する。
- (2) TR5.2に違反するシューズでの出場は認めない。
- (3) 長距離競走において1レースの競技者が多数の場合は、グループスタートで行う。
- (4) トラックレースにおいて、予選の棄権者により出場者が9名以内の場合は、予選をおこなわず決勝の時間に行う。
- (5) 少年A男子5000mWと少年A女子5000mWは、競技運営上の理由から男女同時スタートとする。
- (6) 助力については、競技場内での助力は禁止とするが、コーチングエリアからの助言については競技運営や他の競技者の競技の妨げにならない範囲で認める。コーチングエリアにおける映像機器の取り扱いについてはTR6.4.5を順守すること。

6. 抗議について

競技進行中に起きた競技者の行為、または順位、記録についての抗議は、その競技者またはチームの代表者が結果が発表されて30分以内(同一日に次のラウンドが行われる種目は15分以内)に総務員、審判長に直接伝達する。審判長は速やかに裁定を行う。

7. 競技規程および方法について

2025年度日本陸上競技連盟競技規則によるものの他は、次の通りとする。

- (1) 少年男子A300mハードルの、ハードルの高さは、0.914mとする。
- (2) 少年男子A円盤投の円盤の重さは、1.750kgとする。
- (3) 少年男子Aハンマー投のハンマーの重さは、6.000kgとする。
- (4) 少年男子Aやり投のやりの重さは、800gとする。
- (5) 少年男子B砲丸投の砲丸の重さは、5.000kgとする。
- (6) 少年男子共通110mハードルの、ハードルの高さ/ハードル間は、0.991m/9.14mとする。
- (7) 少年女子A300mハードルの、ハードルの高さは、0.762mとする。
- (8) 少年女子共通100mハードルの、ハードルの高さ/ハードル間は、0.838m/8.50mとする。
- (9) 少年女子共通やり投のやりの重さは、600gとする。
- (10) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

種 目		練習	1	2	3	4	5	6	
走高跳	成 年 男 子	1m75	1m80	1m85	1m90	1m95	2m00	以降 3cm 刻み	
	少 年 共 通 男 子	1m75	1m80	1m85	1m90	1m95	2m00	以降 3cm 刻み	
	成 年 女 子	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	以降 3 cm刻み		
棒高跳	少 年 共 通 男 子	3m50	3m60	3m70	3m80	3m90	4m00	4m10	以降 10cm 刻み
	成 年 女 子	2m40	2m50	2m60	2m70	2m80	2m90	3m00	以降 10cm 刻み

*第1位決定の上げ下げは、走高跳で2cm、棒高跳で5cmとする。
*天候その他の特殊条件によって変更する場合は、当該審判長が決定する。

8. 競技場への入退場について

- (1) 競技場の入退場は全て、競技役員の誘導により行う。競技者以外は、競技場に立ち入ることはできない。
- (2) 競技終了後は、役員の指示に従い、場外へ退場する。メインスタンド前は通らない。
- (3) フィールド競技における競技者は、当該審判員、マーシャルの指示に従い退場する。

9. 競技用器具について

- (1) 競技に使用する用器具は、主催者が用意したものを使用する。ただし、棒高跳のポールは個人所有のものを使用する。ポールについては、競技開始前に跳躍場で跳躍審判員の検査を受け許可されたものが使用できる。やりも個人所有のものを認める。但し、用器具庫で事前に検査を受けること。検査後は主催者で預かり出場者全員で共用できるものとする。(検査は、召集開始1時間前に100mスタート付近の器具庫前で行う)
- (2) フィールド競技で、助走に使用するマーカーは、主催者が用意する。使用し終わったら、競技者自身で取り外し、所定の場所に返納する。

10. 表彰について

各競技8位までの入賞者(B決勝を除く)は賞状を授与する。表彰は3位までとし、当該競技終了後、係の指示に従い表彰待機所で待機すること。なお、4～8位賞状は、エントランスホールに賞状置き場を設けるので取りにくること。

11. 応急処置について

医務室に医務員を配置し、応急処置のみ行う。

12. ごみ処理の協力について

ごみは、各チーム・個人で全て持ち帰ること。

13. その他

貴重品の管理は、各自またはチームごとに責任を持って行うこと。